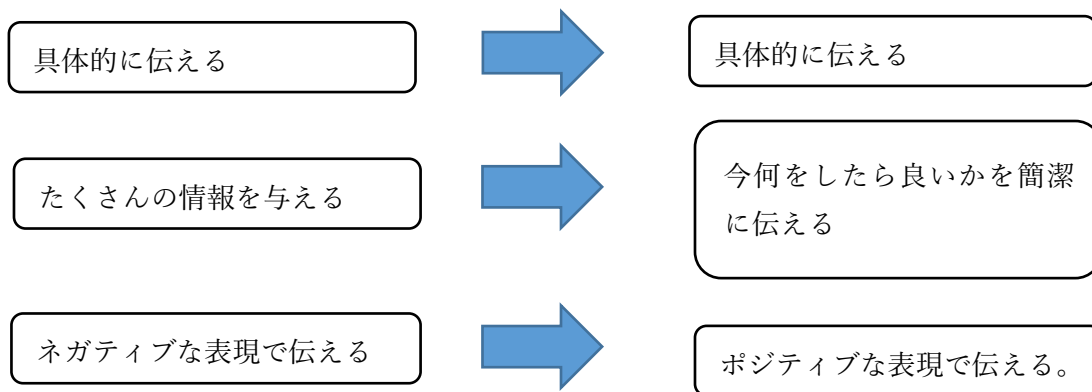


①「行動」でみる、「行動」で考える

よく学校や家庭などで耳にする言葉として「だらしない」、「行儀が悪い」などがあります。あるいはポジティブな言葉として「明るい」、「優しい」というものがあります。これらは「抽象的な言葉であって」「行動」ではありません。「抽象的な言葉」を「動詞」に置き換えることから始まります。

②メッセージの工夫

「きちんとしなさい」「ちゃんとしなさい」という言葉も「抽象的なことば」です。それは「きちんと」や「ちゃんと」というのが「具体的に何をすればよいのか」が分かっていないかもしれません。また、ネガティブな出来事があるとどうしても「長く」「たくさん」の情報を伝えてしまいます。なので「簡潔」に伝えることが大切です。そして伝えるときは「～しない」「～できていない」というネガティブな表現でなく「～する」「～している」という「ポジティブな表現」で伝えることが大切です。



③全体で課題を共有する

まずはそれぞれが学校（学年）で課題だと感じていることを挙げます。それを各グループでブレーストリングの要領で「課題の洗い出し」をします。その際、「行動」で考えることができるか互いに確認しながら具体的にしていきます。続いて KJ 法等を用いて、同じような「行動」をカテゴリーに分類し、カテゴリーに名前をつけます。そのなかから重要だと思う順に3つ程度選びそれを発表し合います。そうすると「課題」とする行動に共通する部分と共通していないズレが見えてきます。このズレを埋めることが学校全体課題を共有することにつながります。

実態把握シート

| 理想 | 実態 | 課題                             |
|----|----|--------------------------------|
|    |    | ネガティブな行動<br>問題行動など             |
|    |    | 例：だらしない                        |
|    |    | ↓<br>シャツを出しっぱなしにする             |
|    |    | 例：いつもだらだらして、しゃべっていて、授業に集中していない |
|    |    | ↓                              |
|    |    | 例：だらだらしている                     |
|    |    | 例：授業に集中していない                   |
|    |    | 例：おしゃべりしている                    |

\*抽象的な表現から具体的な「行動（動詞）」へ

\*「～する」（ポジティブな表現）へ

\*「行動」が複数（たくさんの情報）から、1つの「行動」（具体的・簡潔）へ

④データ収集

⑤理想を共有する

「課題」がネガティブな行動だけになっている部分は、ポジティブな行動になるように記入します。

⑥行動についての考え方を転換する

行動についての考え方をポジティブなものに転換する必要があります。「今できている行動」「簡単な行動」「当たり前の行動」などを意識的に見つけることが大切です。

実態把握シート

| 理想                | 実態 | 課題  |
|-------------------|----|---|
| 子どもたちに求める行動など     |    | ネガティブな行動<br>問題行動など  |
| 例：身なりを整える←        |    | 例：だらしない<br>↓<br>シャツを出しっぱなしにする   |
| 例：常に授業に集中して静かに聞く← |    | 例：いつもだらだらして、しゃべっていて、授業に集中していない<br>↓<br>例：だらだらしている<br>例：授業に集中していない<br>例：おしゃべりしている<br>..... |

資料 2-1-7 行動についての考え方をポジティブに転換するポイント（井上ら〔2012〕を参考に作成）

- ①ネガティブな行動を減らす→ポジティブな行動を増やす=相対的にネガティブな行動が減る
- ②ポジティブな行動についての考え方・発想を変える  
 ✓「誰かより優れている行動」「完璧な行動」「模範的な行動」  
 ↓  
 ✓「ネガティブな行動をしていないときの行動」「当たり前の行動」「今できている行動」
- ③ポジティブな行動を日頃から意識的に見つける、認める、ほめる、引き出す  
 ☆「大きな認める（ほめる）」よりも、「小さな認める（ほめる）」の積み重ねが大切です。  
 ✓「すべて」でなくても、一部分できている」行動→「宿題を全部できていなくても、少しできている」  
 ✓「いつも」でなくても、ときどきできている」行動→「毎日宿題を出せていなくても、3回に1回は提出できている」  
 ✓「できていない」でなく、できている」行動→「落ち着きがなかったけど、座っていた」  
 ✓「当たり前だと思っている」行動→「学校に登校している」  
 ✓「子どもがそこに来てくれる」行動→「子どもの存在自体」
- ④子どもと一緒に考える  
 ✓具体的にできる範囲の計画を立てる→「大きな行動」は、「小さな行動」に  
 【例】教室をキレイにする←自分の机のまわりをキレイにする←自分の机を整理する←机の上を片付ける←計画を立てる
- ⑤子どもも大人もみんな一緒  
 ✓認める（ほめる）側にも余裕が必要→「自分のことやまわりのことも、お互いにポジティブな行動を認め（ほめ）合いましょう」

実態把握シート

| 理想                | 実態                              | 課題  |
|-------------------|---------------------------------|---|
| 子どもたちに求める行動など     | ポジティブな行動<br>今できている行動など          | ネガティブな行動<br>問題行動・不適切な行動など   |
| 例：身なりを整える←        | 例：シャツをズボンに入れる                   | 例：だらしない<br>↓<br>シャツを出しっぱなしにする   |
| 例：常に授業に集中して静かに聞く← | 例：授業中は前を向く<br>例：集中する<br>例：静かに聞く | 例：いつもだらだらして、しゃべっていて、授業に集中していない<br>↓<br>例：だらだらしている<br>例：授業に集中していない<br>例：おしゃべりしている<br>..... |

\*「行動の考え方の転換」  
今できている・当たり前の行動へ

\*抽象的な表現から具体的な「行動（動詞）」へ  
\*「～する」というポジティブな表現」へ  
\*「行動」が複数（たくさんの情報）から、1つの「行動」（具体的・簡潔）へ